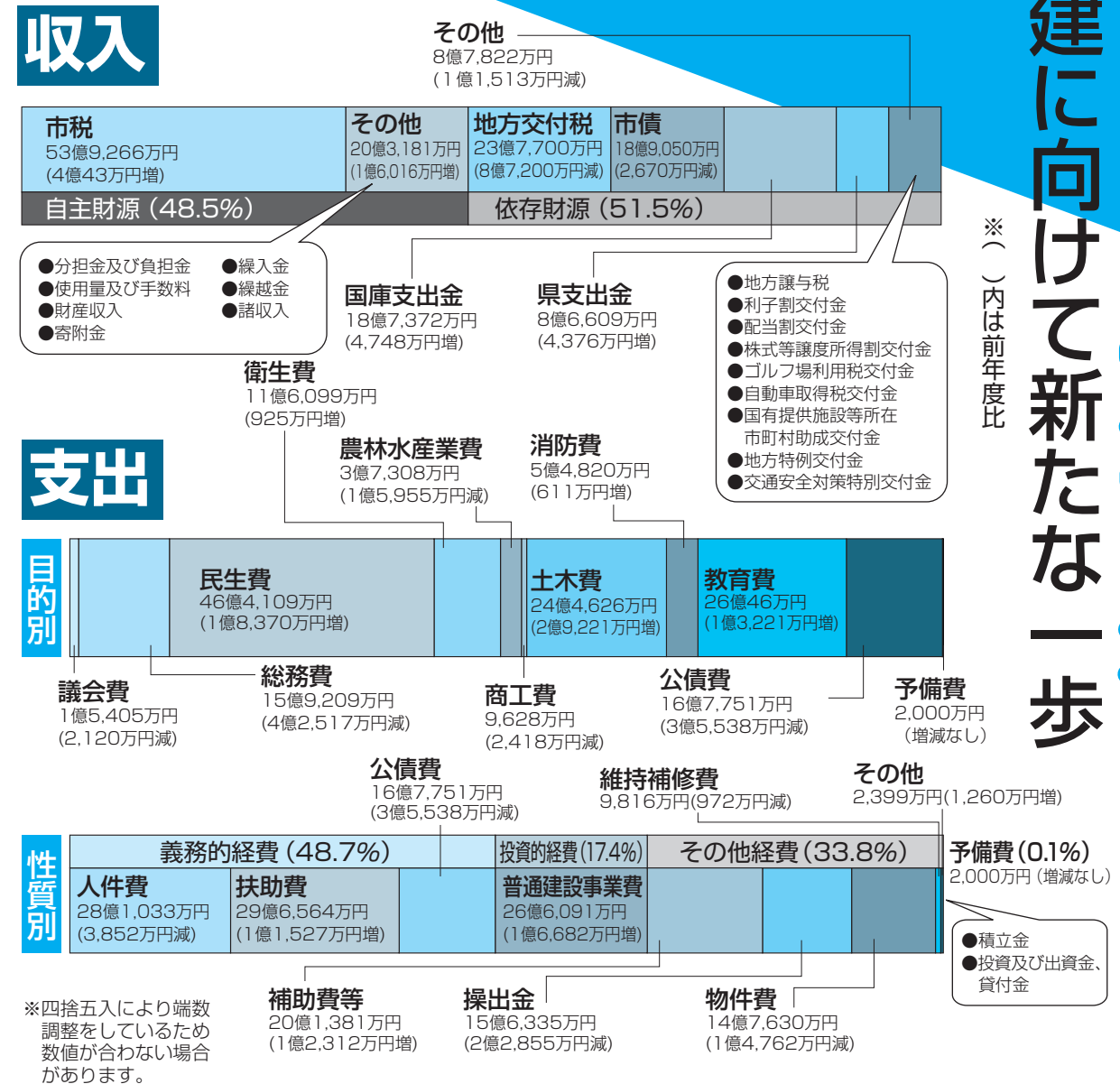


平成20年度の予算が決まりました

問い合わせ先
企画財政課
財政班
(合志庁舎)
☎248-1813

一般会計予算の総額は153億1千万円で、前年度と比べ、3億6千2百万円、2.3%抑えた予算としました。
市民一人あたりに換算すると28万3,272円になります。
(人口は平成20年3月末現在)



予算編成は、次の政策実現に向けて行ないました。

総合計画に掲げる4つの基本政策

- I 人々が安全に安心して暮らせるまちづくり
- II みどり豊かな環境と共生するまちづくり
- III 働く人々が輝き続けるまちづくり
- IV みんな元気で笑顔あふれるまちづくり

★最重要施策

- 「行財政改革の推進」
- 「義務教育の充実」
- ☆重点施策
 - 「交通安全対策の推進」
 - 「農業の振興」
 - 「商工業の振興」
 - 「健康づくりの推進」
 - 「子どもを見守り、育てる地域づくり」

4つの基本政策の目的を達成するため、平成20年度に取り組む主な施策

特別会計予算 () 内は前年度比

国民健康保険特別会計	老人保健特別会計	後期高齢者医療特別会計	介護保険特別会計	下水道特別会計	農業集落排水特別会計	水道事業会計	工業用水道事業会計
47億3,135万円 (1億9,397万円減)	4億8,219万円 (35億7,700万円減)	4億3,295万円 (皆増)	26億4,000万円 (9,042万円増)	23億3,678万円 (5億9,811万円増)	8,731万円 (320万円減)	12億7,885万円 (2億7,526万円増)	5,847万円 (803万円増)

《収入》

○給与	33万4,420円 (1万2,490円減)
うち基本給	20万2,060円 (市税などの自主財源)
諸手当	13万2,360円 (地方交付税、国県支出金など)
○金融機関からの借入	5万1,450円 (市債)
小計	38万5,870円 (1万3,220円減)
○貯金の取り崩し	3万800円 (基金繰入金)
合計	41万6,670円 (9,850円減)

※() 内は、19年度と比較した増減額です。
19年度のこうし家の年収は511万8千円でした。

MEMO

1カ月の収入は41万6千670円。
そのうち、給与の基本給の多くが市民の皆さんが市に納めた税金「市税」です。諸手当のうち「地方交付税」は、国民が、どの市や町に暮らしていても、標準的な行政サービスを受けられるよう格差を解消するため国から交付されるもので、所得税や消費税などから全国の地方自治体に配分されています。
基本給(税金収入)は増えたのですが、諸手当(交付税など)が減り、給与はマイナスとなってしまいました。

《支出》

○食費	7万6,480円 (人件費)
○光熱水費、通信費など	4万180円 (物件費)
○医療費	8万710円 (扶助費)
○ローンの返済	4万5,650円 (公債費)
○家、車、家電の修理、買換え	7万5,090円 (維持補修費、普通建設事業費)
○家族への仕送り	9万7,360円 (繰出金、補助費等)
○その他の諸費	1,200円 (積立金・貸付金)
合計	41万6,670円 (9,850円減)

MEMO

支出のうち、食費(人件費)や光熱水費(物件費)を節約していますが、家族の医療費(福祉に必要とする扶助費)が増えています。これらの支出とローンの返済(公債費)は、支出を減らすことが難しい費用で「義務的経費」と呼ばれています。一般家庭のエンゲル係数(家計における食費の占める割合)が高いことと似ていて、余裕がありません。市の義務的経費の割合は、48.7%で熊本県下14市中、低い方から3番目となっています。

こうし家の家計簿はこうなりました

市の財政を家計に置き換えると



予算のうち、市民生活とかかわりの深い、一般会計について、家計に置き換えてみましょう。
家計と市の財政は、お金の使い道も規模も違うので単純には比べられませんが、市の一般会計予算(153億1千万円)を年収5百万円の「こうし家」の家計に置き換えた場合は上記のようになります。

ローンの返済は?

金融機関からの借入は「市債」です。簡単にいうと市の借金です。家を増改築したり、車を買ったりするときに、口を組むのと似ています。例えば何十年も使われる学校や道路を作るには、一度にたくさんのお金が必要ですが、市債の借入によって費用を賄い、長い時間をかけて少しずつ返済すれば、資金準備も楽になり、それらを利用するご世代の人々も公平に負担することになります。

これでいよいよ

まだ、貯金が減って、ローンが増える状況となっていますが、中長期財政計画の目標では、平成22年度には実質的な財源不足を解消し、平成27年度までに財政調整基金積立金(貯金)を合併時の水準に戻すこととしています。
本年度の予算編成では、事業のあり方や内容について可能な限り見直しを行ないました。今後、市債残高を着実に減らし、将来に向けた財政健全化の歩みを確実なものとしていきます。

●市債期末見込残高
165億5,410万円
(4億6,695万円増)

●財政調整基金期末見込残高
12億9,800万円
(5億2,289万円減)